

トピックス

開会挨拶（要旨）

核融合エネルギーフォーラム議長（京大名誉教授） 佐藤文隆



このフォーラムは、核融合フォーラムとしてスタートした時期から数えると8年、核融合エネルギーフォーラムに改組してから3年を越えようとしています。ご存知のようにフォーラムは、国際的な共同プロジェクトであるITERを日本に誘致しようということからスタートしました。その後、ITERはヨーロッパに設置され、同時に幅広い取り組み（ブロード・アプローチ、BA）活動というEUと日本による新しい事業もスタートし、それぞれ大きな寄与が期待されています。ITER計画とBA活動については着実に予算化され、技術や様々な難しい課題を着々と解決していく本格的な段階に入ったということで、運動団体という役割としてではなく、それをサポートしていく団体として現在の核融合エネルギーフォーラムがあります。

フォーラムの役割の一つに、若手研究者の奨励ということがあります。それから、長期間にわたる国際プロジェクトですので、短期決戦ですと派手に立ち上がってその勢いでいくんですけども、長期にわたるとなると、時には雨が降ったり色んな事が予想されますので、研究者の士気を保っていくという意味からもこの団体を運営しています。

私は核融合フォーラム発足当初から運営会議の議長という役を仰せつかって今日まできたのですが、やはりこういう長期にわたるプロジェクトの支援組織ということですので、絶えず色々な人が役を次々と担って、フレッシュなエネルギーを積み上げていくという組織になっていく必要があると思います。また、絶えず若返りしていくと同時に、これまでに寄与していただいた方々にも名誉会員として顧問と同様に名を連ねていただき一つの資産にしていくという考え方で長期にわたる運営を見越し、その前提で先の運営会議で規約の改訂と必要な確認を行いました。

そうした中で、私自身は今回で議長を降りさせていただいて、後任の方を考えて頂いた次第です。こうして前に立ってしゃべるのも最後になるとしますので、一言だけ申し上げます。この分野の議論に参加して今でも違和感を持っているのは、エネルギー問題というのは枕詞のように「我が国の」エネルギーとなりますね。しかし最近では、核融合と姉妹関係のような原子力も、外国で日本の技術力を発揮する時代になりつつあります。人類が協力して積み上げてきたものというのは、日本の国土の上にエネルギーを作るというだけではないという認識が必要なのではないかと思います。いつも私は運営会議の中で我が国のエネルギーという枕詞をとってはどうかと言うのですが、いや税金もらっているのだからダメだと言われることが何回かありましたので、最後に一言、これだけを言い残して挨拶としたいと思います。